

口永良部島 2015 年 5 月 29 日噴火の噴出物分布 (速報)

- ・火砕流の分布面積は前回 2014 年 8 月 3 日より広い。平均的な層厚も厚い可能性がある。
- ・発生した火砕流の温度は、100~400 °C程度であると推定される。

【本文】

NHK 等の報道映像を基に、噴出物の分布を判読し、地図に示した。

監視カメラなどの映像から新岳火口付近から北西、西側、東側に火砕流が流れ下ったことが確認できる。特に北西側に流れ下った火砕流は、海岸の向江浜まで達し、前田の近くにも火砕流が到達している。

監視カメラのなどの動画から火砕流が流れ下ったと判断できる地域には、特に噴出物が厚くつもっていた。そのため、動画で確認できなかった地点においても、特に噴出物が厚く積もっている地域をその範囲を地図上にピンクで示し火砕流の分布とした (図 1)。

2014 年 8 月 3 日噴火の火砕流の分布 (図 2) と比べると、今回の噴火のほうが範囲は広い。また、今回の火砕流堆積物のほうが地表をより厚く覆っているよう見える地点が多いので、平均的な層厚も大きい可能性がある。

この範囲のいくつかの地点では、樹木の倒壊 (概ね推定される流れの向きにそろって倒れている) が発生し、地形的な低所に厚く噴出物が堆積していることを確認した。また、新岳北西の標高 200~350 m に位置する谷底には、厚く噴出物が堆積してそこから白煙 (蒸気?) が上がっていることが確認できた。白煙が噴出物の熱によって地表水ないし浅所の地下水などが蒸発した結果発生したものだとすると、火砕流の温度は 100 °C を超えていると判断される。なお、樹木などが焼け焦げた跡は認められなかった。しかし、午後の映像から木々の葉が茶色く変色しているのが確認できるため、高温であったことは確かである。樹木の発火点は 400~470 °C なので、火砕流の温度は、100~400 °C 程度と推定される。

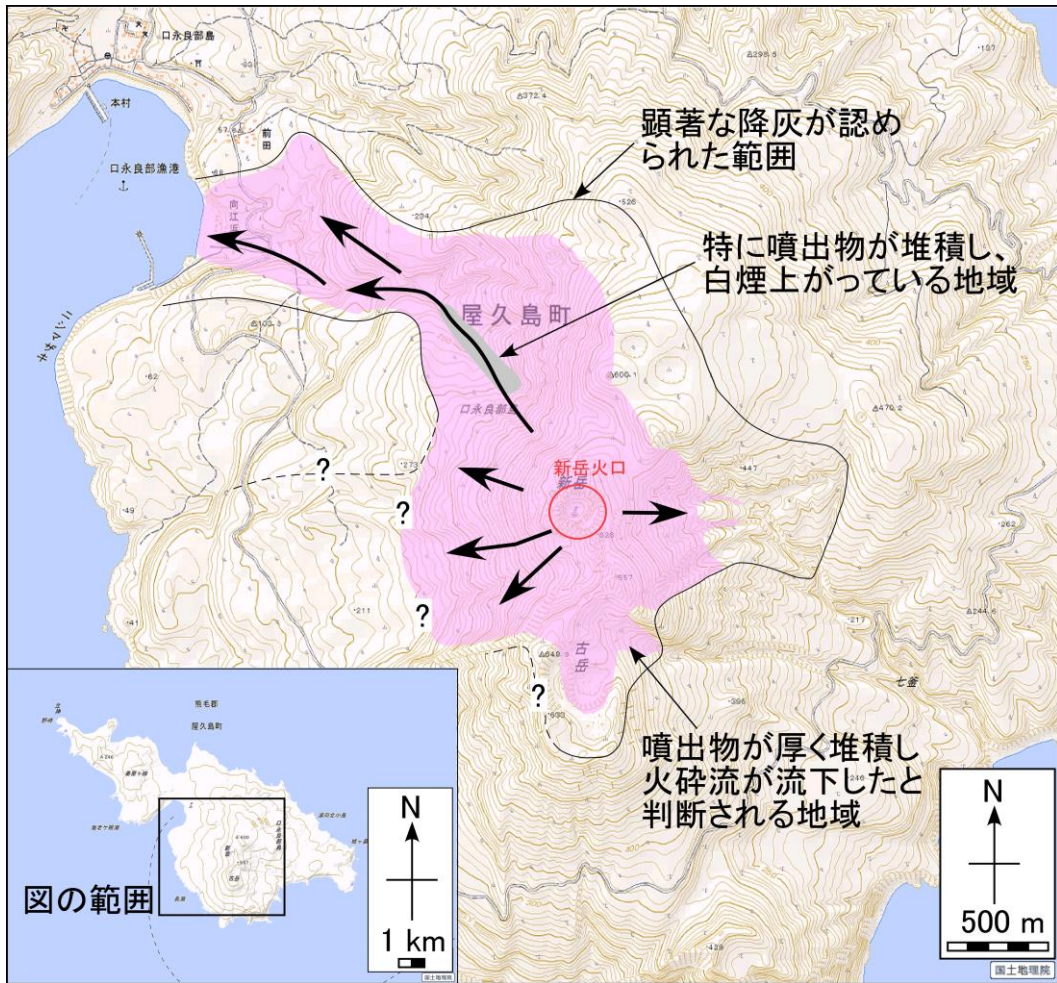


図1 2015年5月29日噴火の火砕流の範囲

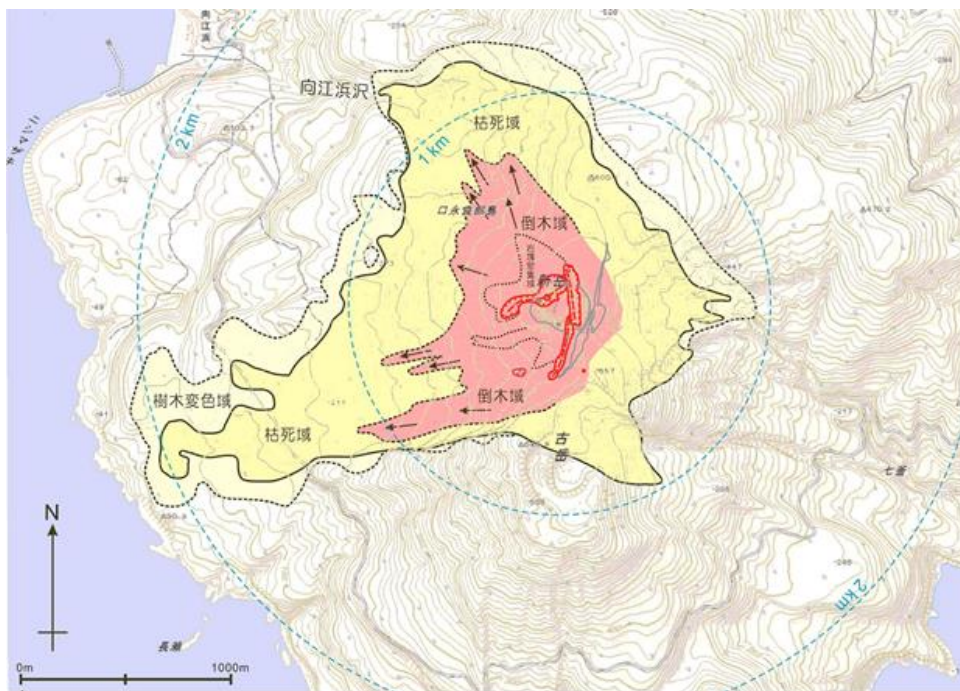


図2 2014年8月3日噴火の火砕流の範囲 (予知連資料より)